

令和8年度第1回石巻市総合計画推進会議 会議録

■日 時 令和8年6月25日（木） 10時～12時10分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数25名に対して15名が出席しており会議は成立

2 開会あいさつ

（齋藤市長）

令和8年度第1回石巻市総合計画推進会議の開催にあたり、一言、ご挨拶を申し上げます。委員の皆様には、日頃から本市の行政全般にわたりご支援とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、令和4年度に始まった本会議も5年目を迎え、本市の最上位計画である「第2次石巻市総合計画」を推進するため、今回は、前期の基本計画の最終年度にあたる令和7年度の内部評価について、各施策の効率性や有効性をはじめ、目標達成に向けてどのような課題を改善してきたのか、市が実行してきた施策に対し、評価・検証をしていただく、大変重要な会議となっております。

昨年度には、本会議における評価結果や、市民満足度調査の分析を踏まえ、課題を体系的に整理し、解決すべきポイントを明確にした、後期の基本計画を策定しました。「第2次石巻市総合計画」における計画期間の折り返しを迎え、今後も、市民の皆さまと、石巻市の未来につながる対話と議論を重ねながら、「住むことに誇りが持てるまち、石巻」の実現に向けて、オール石巻で取り組んでまいりますので、是非、忌憚のないご意見を賜りたいと存じます。

結びとなりますが、委員の皆様におかれましては、引き続き、本市の発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、季節の変わり目である梅雨に入りこれから暑くなりますが、くれぐれもご自愛の上、さらなるご健勝を心からお祈り申し上げます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

（会長）

前期計画の推進会議ということで、最終年度を迎えました。本会議は皆様からたくさん意見をいただきまして、毎年400件以上の意見を出していただいております。この熱量は全国1位の会議ではないかなと勝手に思っております。本年度もこの熱量のまま、去年を超えてすばらしい会議にしていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最終年度ということで、私からのお願いは1点でございます。課題ではなく「可能

性」と「強み」をぜひ見出していただきたいということです。総合計画の評価といたしますと、どうしても課題に目が向きがちです。どこが改善されていないのか、数値が悪くなっているのはどこなのか、この課題を解決することは非常に大事です。しかし、ただ課題を解決するだけでは、不満の少ないまち、普通のまちに近づくことにはなりません。ぜひ「石巻らしいところ」はどこなのか、数字には表れていない良いところ、そういったところに目を向けていただきたいと思います。

何が足りないのかではなくて、何を伸ばせるか、何が強みなのかについて、ここで前向きな意見を出し合い、後期計画につなげていただきたいと思いますので、今年度も完璧な意見ではなく、ちょっとした違和感や、ここがのびせるのではないかなど、このような視点でたくさん意見を出していただけると幸いです。本日も短い時間にはなりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 議題

(1) 総合計画推進会議における評価・検証について（資料1：政策企画課）

内部での評価方法、外部評価として委員が評価する2つの視点、
会議の流れについて説明

(2) 第2次石巻市総合計画の令和7年度達成状況について

（資料2、資料3、追加資料：政策企画課、各担当課）

【内部評価結果の昨年度との比較】

昨年度の評価結果と今年度の内部評価結果について、実績値の確定による修正
箇所も含めて政策企画課から説明

【第1章 第1節～第3節】

（1班・委員）

少子化及び高齢化対策、移住定住の関係でお聞きしたい部分がございます。第1章第2節の細節2「外国人住民数」について、令和7年度実績が1,793名ということで、全国的な外国人の受入れ数値は3.2%位と認識していますが、石巻市で3.2%受け入れるとなると4,000人位になるかと思います。今後、市としてどれくらいの外国人の受入れを考えているのか、介護や水産加工場の人手不足が指摘されている中、将来的に何%を見込んでいるのか、教えていただきたいと思います。

（地域振興課兼日本語学校設置推進室）

現在、石巻市には留学生も含めいろいろ外国人の方々に来ていただいておりますが、将来的に目標として何人という数字設定はしておりません。令和8年3月末現在ですと、人口に対し1.39%の外国人の方がいらっしゃるというような状況になっており、外国人の方々にいろいろな技能等々を習得していただき、様々な場面における人材確保といった部分につなげていきたいという考えはありますが、現段階では特に目標とし

ての数値は設定しておりません。

(1班・委員)

日本語学校の設置等、その部分の市としての考え方はどうなのでしょう。

(地域振興課兼日本語学校設置推進室)

日本語学校の設置についてですが、具体的にどこに設置するか等確定はしておりませんが、検討を進めているという状況となっております。

(2班・委員)

地域おこし協力隊の澤野真さんという姫路市出身の方が、現在石巻市で大変活躍しております。その方が11月に大阪市の駅前において「石巻大博覧会」の実施を計画ということで、これは石巻市に関わりのある方を呼び、関西に住んでいる方たちに石巻の良さを教えたい、知ってほしいという形で石巻への定住を進める計画となっております。今回、はじめて大阪市で行うということで、このような企画を全国で実施することができたら、もっと多くの方々に石巻市に集まってもらえるのではないかと1つの案を提案いたします。

(SDGs 移住定住推進課)

澤野地域おこし協力隊につきまして、昨年6月から隊員として委嘱しております。石巻市との二地域居住推進事業ということで、地域課題を解決していただく活動と一緒にっております。お話がありましたとおり、澤野さんの提案により今年度11月に大阪市でイベントを実施することになりました。例年、当課では首都圏東京で毎年イベントは開催しておりますが、今後はいろんなところでこのような移住促進イベント等を開催していきたいと考えております。

(会長)

非常に貴重な機会だと思いますので、ぜひ活かしていただければと思います。

(3班・委員)

「お試し移住体験事業」に関する復興住宅の件ですが、3世代で居住されている場合、家族が仙台方面で働き出すことにより総収入が増え、家賃が高くなるということで、それならば仙台方面に住んだ方がいいと結果的に復興住宅がどんどん空き家状態になり、復興住宅の高齢化が進んでおります。総収入に応じて家賃をとるのではなく、可能な限り親子3世代が住めるよう、離散家族ならないようにと石巻市から離れていくような事態を防ぐために、被災地石巻市が代表して国の政策に対し全国の被災地が抱える問題として、石巻市が先頭に立って改善を働きかけて欲しいと思います。

(SDGs 移住定住推進課)

復興住宅の担当課が現在いないので、お試し移住に関する話になりますが、やはり復興住宅の空き住戸が増えてきている中で、当課としましては移住定住促進のための有効活用としてお試し移住を実施しております。今年度からはさらに半島沿岸部の復興住宅の空き住戸を活用し、二地域居住ということで、生活の本拠点は他にある方が石巻市に定期的に訪問できるような事業を今後も展開していきたいと考えております。

(政策企画課)

復興住宅の家賃関係になりますが、このあと説明いたします第2章第3節の「安心安全な住環境と都市機能の整備の推進」のところで、担当の住宅課職員が説明にまいりますので、こちらの方で改めてご意見いただければと思います。

(3班・委員)

最後にもう一つだけ、今回の震災で仮設住宅にお風呂の追いだき機能がありましたが、あれは冬場寒くてどうにもならないという悲鳴を上げて、初めて出来た機能であり、国の政策として本質的に大きな声を被災地から上げないといけない状況があります。今お話しがあったように消極的に第三者を入れる政策も大いに結構ですが、復興住宅の空き家解消の本質的な解決にならないということを、腹に据えて考えていただきたいということを皆さんに訴えたいと思います。

(4班・委員)

4班では、「安心して暮らすための地域防災力などの向上」についていろいろな意見が出ました。その1つに、被災地なのに防災訓練の参加率が低い件について、参加率が低い理由には、例えば浜の方では高台に住んでいる方が多いことから、そもそも安心して暮らしている現状があるのではないかという意見もあり、防災訓練参加率の数字に対し、低いということは安心して暮らしているという意味もあるのではないかと意見もあります。実際に訓練に参加している中心部の方、その人数について知りたいという意見が出ました。

(会長)

防災訓練に関するエリア別の参加率がわかればと思いますが、いかがでしょうか。

(危機対策課)

防災訓練の参加率について、昨年度は12.98%と低い状況でしたが、この部分については、天候が悪かったところが大きい理由となっており、令和6年度より令和7年度実績は数字が向上しているものの、令和5年度実績に比べれば大分低くなっている現状となっています。低くなっているから安心という解釈ではなく、地域の防災訓練自体が、これまでのリーダー的な存在の方から今回は地域ではやらないという判断をされる等、このような現状が見えてきています。地域の方々とのお話しの中で、子供会がなくなってきたりとか、地域の次のリーダーになるような方とのコミュニケーションが非常に少なくなってきたりとか、高齢になったリーダー及び区長さん等々が、次の世代の方にバトンが渡せない状況等が重なり、地域での活動が停止してきているととらえています。

地域別の参加者数は今手元にありませんが、今回参加率14.57%っていうことで約1万8,000人の方に参加していただきました。やはり半島部の方々の参加については、少ないと考えています。一方、中心部ではすべての学校で登校日扱いにしておりますので、その部分で参加者数は多くなっております。今後の取組については、親子で一緒に参加できるような仕組みを推進し、地域のリーダーについても次世代にバトン

が渡せるようなコミュニケーションがとれる場を作っていきたいと考えております。

【第1章 第4節～第6節】

(4班・委員)

4班では公共交通機関の件で話が出ました。公共交通機関を利用しなければならないということはわかりますが、どうしても好きな時間に行きたいところに行けるという手段が一番になります。そうすると経費の問題や配車のことも考えると、なかなか公共交通として実現はできないということで、私は福祉分野の担当であり、希望者のところへこちらから出向く事業などを経費がかかりながらも社会福祉協議会だから使命をもってやっております。このような送迎の問題を含めて、高齢者やサービスを必要とする方々をどこか1か所にまとめて輸送することができれば、その施設でいろいろな面倒を見ることができるのではないかというのが話が出ました。

もう1点、男女共同参画社会の話について、あまり数字にこだわる必要はないのではないかという話が出ました。現在、一生懸命仕事ができている女性も増えたことで、いずれ自然と増えていくだろうという話になりました。

(会長)

高齢者の公共交通ネットワークの件ということで、担当課からお願いします。

(地域振興課兼日本語学校設置推進室)

高齢者にかかわらず障害者の方も含めた福祉部門の交通に関しましては、現在、高齢の方が運転免許を返納された場合に対する助成制度を、今年度から拡大して対応しております。個別の障害者に関しては障害分野の方で助成券を出す等の対応をしておりますが、1か所に集約という部分に関しては難しい面もあることから、高齢者等も含めた利便性の高い公共交通を目指していく必要があると考えております。

(3班・委員)

男女共同参画社会について意見が2つあります。「審議会・委員会等に占める女性委員の割合」を増やす方法として、市の行政委員あるいは区長等について、ぜひ正副を置いていただいて、必ずどちらかは女性を選任するという制度として推進することで、地域全体に必ず女性委員を置くことができるのではないかと思います。実際、私の地区では女性の方が多いにも関わらず、会議等にある女性が来た際に、他に女性がいないので帰ってしまったケースがありました。だれか一人でも女性の方がいれば参加してくれたと思いますので、ぜひ制度として、石巻市で実施していただければと思います。

(3班・委員)

もう1点、「審議会・委員会等に占める女性委員の割合」について、例えばある程度の規模の会社をお願いして、女性社員の方を委員として出していただくことが可能になればいいのではないかというアイデアです。女性委員の登用については、女性社員の方が勤務時間中に来やすい環境等、直接会社をお願いしないとできないと思います。どうしてもボランティアで参加となるとハードルが高いので、そういう方法も1つある

のではないかと思います。

(地域振興課兼日本語学校設置推進室)

行政委員等について所管しておりませんが、確かにどちらかを女性にすることができれば可能になると思います。審議会・委員会等に占める女性委員の割合につきましては、もう1つの意見としてありました会社の女性社員の出席という部分も含めて、どうしても選任の際に充て職的に委員を任命している現状があり、その部分で男性の方が充てられるという側面があります。その参集範囲について、もう少し柔軟できないかというところで、働きかけを今後も行っていきたいと思います。

(2班・委員)

第1章第6節の「未来につなぐ震災伝承の推進」について、震災遺構に来館される方も増え、出前講座もしていただいていたいいなと思いましたが、昨年度、地元の小中学生や高校生が授業の一環として来館することが常にあった方がいいのでは、というお話があったと思います。令和7年度に地元の小中高等学校が、授業として震災遺構に訪問した回数がどのくらい増えたのか減ったのか、教えていただければと思います。

(震災伝承課)

市内の小中高等学校の震災以降の利用状況についてですが、教育委員会では実施している学校防災推進会議という会議体に震災伝承課も参加しており、防災教育の観点から様々な議論を行っております。その中で、震災から15年が経ち、震災を体験していない児童生徒及び教職員が増えているという現状から、小中学校のうちに必ず1度は震災遺構を訪問する授業について、座学だけではわからない実際に目にすることで得られる教訓を学ぶという視点で、昨年から強化する方向で進めております。

訪問実績を比較すると、令和6年度小学校が門脇小学校で14校、令和7年度は小学校で23校となり、中学校はカリキュラムの問題で増えず、4校から2校へ減っております。全体で見ると令和6年度の18校から令和7年度には25校に増えたということで、今年度もバス代等の問題も含め、市として予算を確保しながら、震災遺構の活用につなげていく方向で教育委員会との連携を進めておりますので、震災遺構担当としましては、子供たちが来館したときの受入れ体制について、強化していきたいと考えております。

(会長)

学校教育に組み込んでいる自治体もありますので、ぜひ引き続きご検討いただきたいと思います。

(1班・委員)

第1章第4節の「誰もが平等に生きるための男女共同参画社会の推進」についてですが、女性人材リストをもとに審議会・委員会の女性委員を選出していると思われますが、昔から割合が変わっておらず、私的にはD評価だと思っております。目標値40%も50%位にしてもいいのではないかと思います。人材リストについてですが、仕方なく登録した人も結構多いと思いますが、例えば、学校を退職した先生やPTA会長等、他

の部署と協力して、意識が高く視野が広い方々から人材リストに登録していただく方がいいのではないかという意見が出ました。先ほど別の班でも話がありましたが、会社の協力がないと仕事をしている女性は昼間の平日にこのような会議に参加することは難しいので、その辺の協力も必要だと思います。

(地域振興課兼日本語学校設置推進室)

審議会・委員会等に占める女性委員割合はずっと低い状態で推移しており、上がったとしても0.7%という低水準で推移しているのが現状です。女性人材リストから登用している部分もありますが、今お話しにあった通り、登録自体も進まないという問題もあります。先日、女性活躍推進会議を行った際に、新たな委員ということで退職された学校の先生が登用され、いろいろな意見をいただいたという経緯があります。今後、幅広く登用していくためには、人材リストへ登録について教員の方々、PTA会長には女性の方多くもいることから、ご協力いただけるよう働きかけていきたいと考えております。

【第2章 第1節～第3節】

(2班・委員)

第2章第1節の「豊かな自然環境の保全・生活環境の充実」というところで、定量評価については、目標に対する達成率ということでここに異論はないのですが、定性的なところでの意見になります。

自然環境は維持保全、現状維持ができればいいと思いますが、脱炭素の取組については、自分自身日頃仕事をしていて、あまり意識が高くないという感覚があり、多分、いろいろな企業がサプライチェーン中でそのような意識が求められていない現状が要因なのかなと思っています。市として、このような層の意識をさらに啓蒙していくという意味合いから、もう少し力を入れて取り組んでもいいのではないかと考えております。

そもそも具体的な取組が決定していなかったことにびっくりしましたが、太陽光施策等は全国である程度行っている中で、例えば、今だと系統用蓄電池事業など全国的に盛んになってきている事業を呼び込み、先進的なイメージを付けるということも実施してみたらいいのではないかと考えた次第です。

(環境未来推進課)

脱炭素の取組につきましては、本市だけでなく、地球規模レベルでの問題と考えており、1つずつできることから始めることが必要ではないかと考えております。今年度の新しい取組としましては、企業と連携協定等を結ぶ等こちらの取組も進めておりますので、引き続き、様々な取組を行いながら、脱炭素の取組を進めて参りたいと考えております。

(3班・委員)

空き家になった復興住宅に古くなった市営住宅の方を移動させるという取組は結構なことだと思いますが、先ほどもお話したように、復興住宅の居住世帯の中で働き手が

増えると、その分、家賃が高くなるということで、復興住宅を退去し仙台方面や他のアパートに住むという事態が起こり、地元に残らないような事態になってしまうことから、被災地を代表して石巻市からこの制度を変えるよう全国に働きかけるような運動をしていただきたいというのが要望です。

(住宅課)

確かに復興公営住宅及び市営住宅につきましては、世帯収入によって家賃が決まるということが法律で定められています。お話の通り、世帯収入が増えることにより家賃が上がり、稼ぎ頭になっている若い世代の方が市外の方にも出ていくような状況が見受けられているところです。石巻市単独ではこの制度を変えることはできませんが、国の方に様々な機会をとらえまして、実際の現場の声などをも伝えていきたいと考えております。

(3班・委員)

石巻市だけではなく、宮城県あるいはこの被災3県で連合会を作っても、何とか法律を変えるように働きかけてください。よろしくお願いします。

(会長)

若い世代の流出を食いとめるような制度をぜひ検討いただき、国の方にあげていただければと思います。

(4班・委員)

第2章第3節の「安全安心な住環境と都市機能の整備の推進」というところで、危険ブロックの撤去の件ですが、令和3年度からずっと実績が減っている状況について、これは捗っているから減っているのか、それとも意識が低くなっているから減っているのか、この辺の現状と取組について教えて欲しいということが1点です。

2点目は空き家バンクの登録について、これはぜひとも移住定住だけではなくて昨今進めようとしている「ふるさと住民登録制度」にもつなげていくためにも、これは強ちにぜひ進めていただきたいというお願いになります。

最後にもう1点だけ、都市幹線道路の改良のところについて、無電柱化に対する市の取組についてどのような考えをもっているのか、地震が今日もありましたが、東日本大震災のときも電柱が大分倒れて通行の妨げにもなった経緯もありますので、都市景観も合わせてどうお考えなのか教えて欲しいです。

(建築指導課)

危険ブロック塀の撤去が進んでいない現状についてですが、年々申請件数が伸びていないような状況になっており、最近、大きい地震が少ないということもあり申請自体が減っているような状況でありました。改善が進んでいるわけではありません。

(住宅課)

空き家バンクの周知の関係ですが、昨年、一昨年と固定資産税の納税通知書の方に空き家バンクのご案内というパンフレットも同封し、毎年5万8,000件位は通知を送付しておりますが、令和7年度については実績が伸び悩んだというところです。最近で

は二地域居住ということで他の部署で行っている移住定住の関連で、首都圏などでPRする機会も増え、一緒に空き家バンクに関するPRを今年度はしてみたいと考えております。

併せて、これまで所有者をメインターゲットとして周知を行ってきましたが、所有者以外の家族の方々にもこのような制度があるという形で知ってもらうため、令和8年度はポスターも作成し、いろんなところに貼ることで家族からも、このような制度があるらしいよ、というように話題の1つになってもらえるような取組を今後もしていきたいと考えているところです。

(道路課)

道路沿いの電柱についてですが、現在国・県の方で緊急輸送道路の指定を行っており、指定された道路については、現在立っている電柱はそのままになりますが、新たに電柱を立ててはいけないという決まりになっております。その他、市道については避難として利用する道路の数は少ないので、あまり変更はありませんが、緊急輸送道路の指定を受けた道路については、できるだけ電柱をなくそうとしているところです。

(1班・委員)

ごみの減量化・リサイクルに関してですが、これから始まるプラスチックごみの分別について、どのくらいの汚れならプラごみになるのかなど、詳しい内容についてわかりやすく周知してほしいと思います。小学生や年配の方が見てもよくわかる家庭掲示用ポスターを配布していただき、このような初めてのことはスタートが大事だとすごく思いますので、この辺の周知徹底をお願いしたいと思います。

雑紙収集に関して言うと、最近集まり方が悪いのではないかと考えております。第2章第2節の細節2をみるとリサイクル率は増加しているのでよかったと思いますが、実際にどのような状況になっているのか、教えていただきたいと思います。

(環境未来推進課)

まずプラごみの関係ですが、こちらは本年の10月からプラごみの分別収集を開始することとなっております。スタートにあたって、十分な周知が必要ではないかというご指摘の通り、ごみの分別パンフレット最新版の作成を進めているところです。その他、現在計画をしているのがアプリを使ったごみ分別の案内サービスという周知方法も検討しており、ご指摘があった通り、子供からお年寄りまでわかりやすいような形で様々なツールを利用し、プラごみの分別収集に対する周知をしっかりと進められるような対策を現在検討しております。

また雑紙収集につきましても、ご指摘の通り、少なくなっている現状もありますので、雑紙に関してもごみの減量化につながる非常に重要な分野と認識していることから、プラごみの分別とあわせて、雑紙の分別収集もさらに徹底していただけるような周知を進めていきたいと考えております。

4 その他

政策企画課より、「委員評価表の提出について」説明。

5 閉会あいさつ

(副会長)

グループ内の活発なご意見、そして貴重なご意見をたくさんいただきました。ありがとうございました。2点申し上げたいと思います。

1つはですね、今日の説明は簡潔でわかりやすかったなと感じております。担当課の努力でこの取組や成果のところを、段落で区切っていただいたのもよかったと思っています。それぞれに工夫をされていることが感じられました。

それから評価の件ですが、冒頭会長が申し上げましたように、課題を見つけて、それに対する対応も大事ですが、一生懸命取り組んでいるということ、それから石巻がもっとできること、強み、あるいは可能性、それらも含めて、各委員さんからご意見をいただければというふうに思います。今日はありがとうございました。

令和8年6月25日現在（敬称略）

No.	氏 人	所 属	備 考
1	阿部 隆	特定非営利活動法人 石巻市スポーツ協会	欠席
2	阿部 貞子	牡鹿地域まちづくり委員会	出席
3	姥浦 道生	東北大学	欠席
4	遠藤 一恵	石巻市女性活躍推進会議	出席
5	大槻 敏也	雄勝地域まちづくり委員会	欠席
6	大森 憲市	石巻市PTA協議会	欠席
7	尾形 輝雄	石巻商工会議所	出席
8	木村 亜梨沙	一般社団法人 石巻青年会議所	欠席
9	木村 民男	石巻市子ども・子育て会議	副会長 出席
10	木村 美保子	特定非営利活動法人 いしのまきNPOセンター	欠席
11	後藤 宗徳	一般社団法人 石巻観光協会	出席
12	加納 美雄	いしのまき農業協同組合	欠席
13	齋藤 義樹	特定非営利活動法人 いしのまき環境ネット	出席
14	佐藤 尚美	みらいパートナーズ・きたかみ (前北上地域まちづくり委員)	欠席
15	庄子 真岐	石巻専修大学	会長 出席
16	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	出席
17	高橋 京子	石巻文化協会	欠席
18	齋藤 光	河南地域まちづくり委員会	出席
19	千葉 照彦	桃生地域まちづくり委員会	出席
20	野呂 拓生	東北福祉大学	欠席
21	花岡 徹	石巻金融団	出席
22	林 久善	社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会	出席
23	伏見 不二雄	石巻市町内会連合会（前会長）	出席
24	三浦 悠	株式会社 街づくりまんぼう	出席
25	山内 隆夫	河北地域まちづくり委員会	出席

オブザーバー

1	畑山 作栄	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所	代理出席
2	小野谷 聡	宮城県東部地方振興事務所	代理出席
3	鐙木 祐人	総務部総務課 法制企画官	出席